

やまぐち GIS ひろば 社員総会・GIS 講演会 レポート

2024/ 6/ 28

一般社団法人 やまぐち GIS ひろば
事務局) 弘中淳一

- (1) 日時：2024/ 6/ 22(土)
(第 8 回社員総会) 10:00～11:45、(GIS 講演会) 13:30～17:30
- (2) 場所：(宇部市) 常盤工業会館 2F
- (3) 主催：一般社団法人やまぐち GIS ひろば
- (4) 後援：NPO 法人防災ネットワークうべ (BNU)
- (5) 内容：以下、詳細



<常盤工業会館>

(1) 第 8 回社員総会：10:00～11:45

会員総数：23 名中、出席会員数：15 名（委任状提出 7 名、ゆえ総出席者数 22 名）。
出席者数が過半数を超え、会則第 20 条に準拠。開会の成立を確認した。

定刻、代表理事の三浦房紀が議長席につき開会を宣言。直ちに議決の審議に入った。

- 【第 1 号議案】 2023 年度（令和 5 年度）事業報告
事務局より報告があり、全員一致で承認した。
- 【第 2 号議案】 2023 年度（令和 5 年度）決算
事務局より報告、監査役より監査報告があり、全員一致で承認した。
- 【第 3 号議案】 2024 年度（令和 6 年度）事業計画（案）
事務局より報告があり、全員一致で承認した。
- 【第 4 号議案】 2024 年度（令和 6 年度）予算（案）
事務局より報告があり、全員一致で承認した。

続いて、報告事項、参加者間討議を行った。

- 【報告事項】 事務局長変更の件（第 28 回理事会承認）
今年度より、事務局長を弘中淳一に変更
- 【参加者間討議】
今後の「やまぐち GIS ひろば」（“選択”と“集中”について）
参加者全員より、本法人への提言をいただいた。

以上を以って総会の議案全てを終了し、議長は 11:45 閉会を宣言した。



< 社員総会 実施状況 >

(2)GIS 講演会：13:30～17:30

参加者数 36 名（講師、討論者含む）。内訳：学 5 名、官 4 名、民 27 名

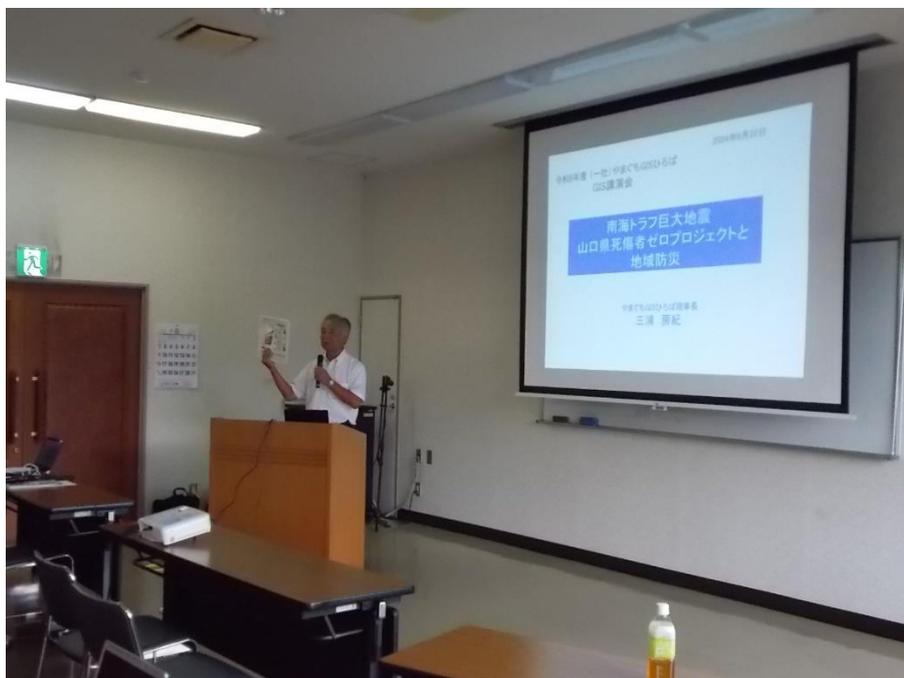


<会場風景>

開会挨拶：本法人副理事長 山本晴彦（山口大学 特命教授）



【基調講演】 ”南海トラフ巨大地震山口県死傷者ゼロプロジェクトと地域防災”
本法人理事長 三浦房紀（山口大学 特命教授）



【講演】 ”山陽小野田市が推進するマイタイムラインとわが街の防災マップ製作“
山陽小野田市防災士協会 専務理事 中込誠氏



【討論】～語り合おう「マイタイムラインとGIS」～

本法人理事長 三浦房紀（山大特命教授）

山陽小野田市防災士協会 専務理事 中込誠氏

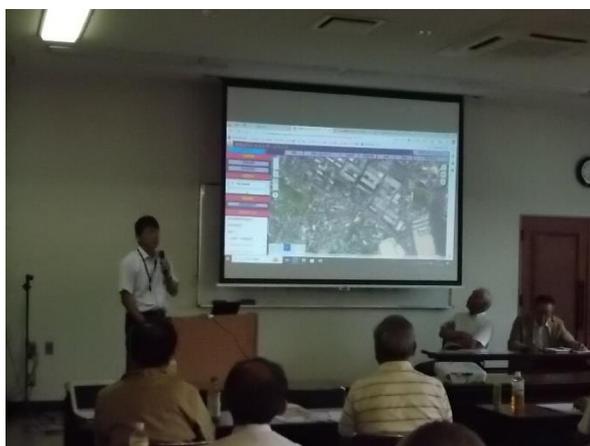
（防府市）大道地区防災士協議会 理事 藤井辰美氏

光市自主防災会 原田浩氏

萩市 細井充氏



【司会進行 本法人理事 弘中淳一（UICコンサルタント株式会社）】



【所感】

これまでいただいた 15 件のアンケートより、本日の講演をよく表現されている一文がありましたので、紹介します。

「三浦先生：南海トラフ地震で死亡者ゼロにするために、自身の立場で何ができるか改めて考える機会になりました。中込氏：マイタイムラインの啓発をどのようにされているのか、とてもわかりやすいご講義でした。中込さんのようなリーダーがいないと進めることが難しい地域の現状を考えると、持続性という点では課題があるなと思いました。」

三浦理事長の基調講演「南海トラフ山口県死傷者ゼロ」にするために、地震発生から緊急地震速報が発令され、山口県に津波が到達するまでの 2~4 時間のうちに避難する際、「誰が、どこに、どう逃げるか」。これを地域で考えるのが、いわゆる地域防災と考えます。その際、(アンケートの通り)中込さんのようなリーダーがいらっしゃる地域と、そうでない地域の差があるのは明白と存じます。それを埋めるのがまさに ICT、GIS の活用ではないでしょうか。なぜならば、情報取得のスピードが格段に向上するためです。電話連絡網で最後の方に連絡がたどり着く前に、情報を得ることができます。

ただ現状では、高齢者の活用が課題であり、活用を前提とした避難計画は立てられていないのでしょうか。GIS 講演会の討論においても「高齢者はスマホを使えない」の意見が圧倒的多数であり、ましてや ICT の活用による地域防災は考えられていない(考えられない)、ということがよくわかりました。しかし、これを何とか活用する手はないでしょうか。

NTT ドコモモバイル社会研究所の報告 ([リンク](#)) によると、70 代 8 割強、80 第 6 割強がスマホを所有しています。もちろん所有者が十分に活用されていないのが現状とは思いますが。しかし、これがもし活用できたら、三浦理事長の言われる「山口県死傷者ゼロ」に、いち早く近づけるように思いました。そのためには地域だけではなく、ICT 有識団体との連携が望ましいように感じました。これが山本副理事長の言われる「**アナログとデジタルの融合によるハイブリッドの地域防災**」と存じます。

私ども「やまぐち GIS ひろば」は、GIS を「地域の危険把握および避難計画」にこれが使えないか、数年前より地域のまち歩きに GIS を活用する活動を年一度で、2018 年より続けており、今年度も下関市で計画しています。この活動を続けてゆくことで、「死傷者ゼロ」に少しでも近づけてゆければと考えております。

最後に、休日にもかかわらずご来場くださりましたみなさま、遠路はるばるお越し下さった講演者各位、そしてスタッフ一同に厚くお礼を申し上げます。

以 上